25日(土) LIXILショールーム
3/3(土)・4(日) TOTOショールーム
各会場でお待ちしてます!!
有限会社 住まい工房おぬま
0120-811-606
http://www.onumakobo.net

2000年10月JLNAブロンズ優秀賞受賞・2007年12月ローカル新聞大賞ノミネート（BSフジ）

稲毛新聞

2012年 2月号 Vol. 185
年間郵送購読料3,000円
150,000部配布

http://www.chiba-shinbun.co.jp メール=info@chiba-shinbun.co.jp

タクシー、ハイヤーのご用命は…
稲毛構内タクシー
本社☎279-1234(代)

■発行責任者・佐藤正成 ■発行・㈲稲毛新聞社 〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台2-5-2-1 ☎043-256-4414(代) FAX043-256-4494

放射性セシウムが消えた!?

GAIA BLACK HOLE有機物分解システムの威力

特報

若葉区に設置され稼動しているGAIA BLACK HOLE

装置の裏側部分

蓋を開けると無害な水蒸気が充満

福島県飯舘村の実験報告書

東日本大震災で福島原発の放射能（セシウム）による土壌や農作物の環境汚染は深刻な問題になっているが、この有害元素を分解し除去する装置が開発され注目を浴びている。GAIA BLACK HOLE（ガイア・ブラック・ホール）有機物分解システムがそれだ。開発したのは千葉市中央区に住む山本将市さんという人である。山本さんは、10年以上前から磁石の研究をしており、高ナウスの磁石を開発、様々な実験を繰り返すうちに、有機物を分解する特徴があることを発見した。これを産業廃棄物処理に応用したところ、有機物類の分解に威力があることが分かった。そこで、放射能の分解を試験したところ、放射能までも除去することが分かり、昨年8月3日から6日まで放射能汚染が強い福島県飯館村で実験を行ったところ、見事に放射線物質除去に成功した。これが事実とすればビッグニュースである。【佐藤】

強力な磁気を利用した分解装置

原子力研究バックエンド推進センターも認める

「元素である放射性セシウムが簡単に消える訳はない、そんな事はありえない話だ」と学者先生たちは否定する。「もし、本当に消えたとしたならばノーベル賞ものだ」とあざ笑う。

しかし、放射性物質に権威ある文部科学省政権関係である原子力研究バックエンド推進センター」の関係者が、昨年8月3日から6日まで福島県飯館村で行われた実験現場に立ち会って、ガイア・ブラック・ホールに放射性セシウムを含んだ雑草、土壌、瓦礫等を投入した結果、有機物類はほとんど消滅した上、放射性セシウムも大幅に減っていると報告を確認した。

福島原発事故で放射性物質（セシウム）に汚染された草木、土壌、河川、農産物に至るまで、今や国民生活に大きな不安を与え、深刻な社会問題になっている。その恐ろしいセシウムが写真のような装置で除去されたというのだから、にわかには信じがたい話である。

実験期間は昨年8月3日から6日まで、普段は若葉区内に設置して産業廃棄物の処理に利用していた「ガイア・ブラック・ホール装置」（写真）を飯館村に搬送、多くの関係者が見守る中で実験した。

飯館村役場付近に設置されている線量計は3・16マイクロシーベルトの数値が表示されていた。

周辺は閑散として、人間はおろか家畜までいない環境である。

まず、畑の土壌を4ヶ所採取し放射能を測定したところ、5・1～6・3マイクロシーベルトであった。また、家屋の雨樋付近の玉砂利、コンクリート片には30マイクロシーベルトの数値を計測。付近の雑草からは5・5マイクロシーベルトの放射能が検出された。これら放射性セシウムを含んだ土壌、玉砂利、コンクリート破片、雑草のすべてを「ガイア・ブラック・ホール」に投入した。終えたのは8月3日午後4時40分。この時、現場周辺の大気中の放射能レベルは3・4マイクロシーベルトであった。処理中10分後の「ガイア・ブラック・ホール」の排気口から排出されていた放射能レベルは2・05マイクロシーベルトと、装置の中で実験サンプルに含まれている放射能はすでに分解・消滅している事実が証明された。

8月4日午前9時から午後2時まで実験現場付近の大気中の放射能レベルは4・4マイクロシーベルト前後。しかし、依然として装置の排気口から排出される放射能レベルは2・29～2・42マイクロシーベルト程度で大差はなく、装置の空気吸を撒き散らし土壌汚染を招き、対策に拱いている。一日も早くこの装置を導入し、徐染作業に活用すべきではないか。既に実証済みだからだ。

飯舘村での実験作業現場

実験に消極的な千葉市

千葉市でこのような処理装置が開発された大変名誉なことであるが、千葉市はどのように評価しているのか環境局を訪ね渡辺茂環境総務課長に聞いてみた。

「松戸市で実験した結果が、余り効果がなかったと聞いている。問題は放射線物質が付近に撒き散らされたら住民に危険なので暫らく様子をみたい」と答えた。

松戸市の実験について山本社長に聞くと「間に入った紹介者がとんでもないカネを要求したので正式な実験はできなかった」と答えた。

松戸市の話を鵜呑みにする千葉市だが、地元で開発された画期的なゴミや放射性物質の減量装置に取り組む姿勢は極めて消極的だ。

一方、小川智之千葉市議会議長は「地元の企業がゴミの減量に画期的な装置を開発したのだから千葉市は全国に先駆けて、積極的に実験結果を検証してみる必要があるのではないか。千葉市は実験は危険であるという前提で二の足を踏んでいるようだ」とコメントしている。

星霜録

が始まり、12時間後には3百分の1まで減溶されたと報告書に記載されている。もともと、本装置は6年前に開発され、千葉市若葉区で産業廃棄物の処理に使われており、その成果が認められ、平成21年に特許を取得している。

初めから放射性物質を処理する目的で開発されたものではなく、たまたま、福島原発事故が発生して、放射性物質も消えるのではないかと考えた山本将市社長の思いつきで、今回の実験に臨んだところ、予想がビタリと当たり、まさに瓢箪からコマが出るという凄い結果となった。

政府・東電は福島県に大量の放射性セシウムを撒き散らし土壌汚染を招き、対策に拱いている。一日も早くこの装置を導入し、徐染作業に活用すべきではないか。既に実証済みだからだ。

地球環境は確実に狂い始めている。タイの大洪水、東日本大震災、そして近年にない大雪、地震の頻発で富士山に再爆発発するのではないかという不安。世界的に異常気象で、今年は何が起こるのか想像がつかない。「地球はミニ氷河期に入った」とある学者は言う。自然災害は人間の力では防ぎようがない▼人の心が乱れると国が乱れ環境も乱れると仏教の教えにある。文明が進み世界的に資本主義、社会主義、イスラム圏など低開発国の人々も目覚め人間として生きるために限りない欲望を満たそうと争いごとが絶えないのは世の常だが、今日ほど難しい時代が過去にあっただろうか▼今まり、地球の砂漠化で人類全ての食糧を賄う生産も不足している。天然資源の乱掘が環境や生態系を破壊している▼中国は14億の人口を養うために漁業や天然資源を求めてわが国の尖閣諸島に進出、ロシアは北方領土、韓国は竹島を占拠している。さらに、アメリカは円高の日本をTPPという恐ろしい貿易自由化で日本つぶしを画策している▼政治家・官僚は自分達の報酬を守ろうと増税や資本主義経済も行き詰